

「地球にやさしい未来へ」

宮崎県 高千穂町立岩戸小学校 6年 ^{なかお}中尾 ^{さくら}咲楽

「ゴーッ。」

テレビをつけると山の斜面が大きく崩れ落ちている映像とともに、ものすごく大きな音が響いてきました。それは、西日本豪雨の時に起きた土砂崩れの映像でした。(こんなことが家の周りで起きたらどうしよう。)と考えると、とても不安になりました。

私が住んでいる高千穂町は、とても自然豊かで沢山の山々に囲まれています。そのため、大雨が降ると山の斜面や道路が崩れることもあります。この前も私の学校の土手の一部が崩れ落ち、驚きました。私は(どうしてこんなことになるのだろう。どうすれば防ぐことができるのだろう。)と自分なりに考えてみました。

なぜ土砂災害が起こるのか。私はやはり、いきなり大量の雨が降ることが原因なのではと、思いました。ここ数年気温が上昇し、「ゲリラ豪雨」や大雨が続くような異常気象が起こっています。この異常気象がなくなっていけば、少しずつ災害も減るのではないかと考えます。

それから、木がどんどん切られていることも問題だと思います。山の木は沢山の水を含んでくれていることを、以前社会の時間に学びました。そんな大切な役割をしている木がなくなってしまうと、水が根に吸収されず土の中に流れこみ地盤がゆるんで崩れてしまうからです。

私は(この問題をどうやって改善すべきだろう。)と思い、家族の考えも聞いてみることにしました。おばあちゃんは、

「温暖化を止めることが一番大切だと思うよ。」

と言っていました。私もそのために節電や節水を心がけています。

次はおじいちゃんと木を切りすぎている問題について話しました。すると、

「スギの木ばかりを植えるのではなく、水を沢山貯えられるブナやナラの木を植えるといいんじゃないか。」

と言っていました。調べてみると、ブナは樹齢200年前後のものだと1年間に約8トンもの水を貯められるそうです。さらにおじいちゃんは、私が生まれる3年前の平成17年9月、となり町の日之影町が台風14号によって多大な被害を受けたことも教えてくれました。いつも私が夏に行くすき通ったきれいな見立川も増水し、泥水になって氾濫したそうです。そして高千穂鉄道の橋の一部が川に流されてしまったり、日之影小学校の職員住宅の裏山が崩れたり、人々の予想を大きく超える被害があったそうです。

私のおじいちゃんが持っている自記雨量計で、その時に降った雨の量を知ることができました。9月5日の昼から6日の昼までで、なんと500ミリメートルもの雨が降ったことが記録から確認できました。

自然災害は今、世界各地で人間の想像をはるかに超える大きさに起こっています。私は(これからますます世界中のみんなが自然を大切に、色々な災害を防いでいかねばならない。)と思いました。現在、様々な分野の人達が自然を大切にしようと言っていますが、日々の生活の中では、実際そこまで意識できていないように感じます。

また、災害から身を守るためには、普段から避難訓練をしたり、家族の人達と避難場所の確認をしておくことも必要だと思います。

私の学校でも時々、災害に対しての避難訓練が行われていますが、これからはもっと真剣に取り組みたいです。

私達の住む大切な地球を、これからは未来をつくる私達が学び、知恵と力を出し合って守っていきたいです。